

創薬研究推進政策の実現（要旨）

21 世紀わが国の最大の国家戦略は、「科学技術創造立国」である。科学技術基本法制定、知的財産戦略大綱、BT 戦略大綱など、政府の科学技術振興政策は着々と進められてきた。平成 18 年度を初年度として、第三次科学技術研究基本計画も進められている。その最重点課題はライフサイエンスであり、疾患の新しい治療技術、新しい医薬品の開発研究など医療分野の研究の推進である。

日本人の三大死因は、がん、脳血管疾患、心臓疾患であり、死亡原因の 6 割を占めている。特にがん克服は医療における最大の課題である。また、高齢化によるもう一つの課題は認知症人口の増加であり、治療法の確立が急務である。

これらの分野での治療法や医薬品開発研究の推進は、欧米諸国では国家の課題と位置づけられ、例えば米国では国立NIHが創薬研究を主導するなど、官民の研究協力体制のもとに推進されている。

ポストゲノムの創薬研究は、国家間の熾烈な競争の中にある。21 世紀の死病、がんの克服、また高齢化の副産物、認知症、特に難病とされるアルツハイマー病の克服は、わが国の安心長寿社会構築のための不可欠の要件であり、かつ世界中の人々に福音をもたらす。同時に、医薬品産業は、21 世紀のわが国のリーディング・インダストリーとなるものと期待される。国家挙げての強力な「創薬研究推進政策」の実現を目指したい。

（東大薬学部講演より・平成 18 年）